村と鎮守様略記 37

本宿村 小野神社

小名 小野宮

書き手 神代地区 富澤 昭二

— 第二回 —

今回は、時の流れの中に埋れた小野神社の祭神の謎にふれます。蝉じぐれの中でこの地に祀られた神々のことを思い浮かべてみるのも一興です。

小野神社本殿

地域の歴史

神社のご祭神につきまして付記し参考とさせて頂きます。

名所図会では「上古は瀬織津比咩一座なりしに一宮下春命を遷座し奉り、また倉稲魂命を配祀し小野神社を三神となしまいらせることはその時世をしるべからず」とあり年紀を経てご祭神が加わってきたようで、式内社調査報告書では同様に創建時は瀬織津比咩一神であったが後に天下春命と称される神を迎え、その主座を天下春命に譲ったものかと考えられると記されております。風土記稿、名勝図会は瀬織津比咩命一神とし天下春命には言及をされていないようです。明治の明細取調書上や現在の神社誌、神社名鑑などは天下春命、瀬織津比咩命の二神と記し、名所図会にある倉稲魂命につきましては記されておりません。またどのような由緒を以って瀬織津比咩命という神を創建時にご祭神としたのかを記したものも見当たらないようです。

なお市資料集では参考として古くは宝亀三年（772）の頃に太政官より諸国に下した公文書の太政官符から引用をして祭神は本来「雷神」である記録がみられると記しております。

ご祭神の瀬織津比咩命は、「祓」のところを主宰する四神のうちの一神（他の三神＝速開都比咩・気吹戸主・速佐須良比咩）といわれ、天下春命は神代の昔に饒速比命が天孫降臨に先立って河内国に天降ったときに天上より供奉随身をした三十二神のうちの一神で最も威霊のある神といわれております。

ちなみに一ノ宮邑の小野神社のご祭神は名所図会は天下春命後に瀬織津比咩命・倉稲魂命を合祭して「三神一社三扉」と記し、名勝図会、式内社調査報告書は天下春命を主神とし、相殿に伊弉那岐命、大己貴命、素盞嗚命、瓊々杵命、彦火々出身命の五座を祀るとあり、風土記稿はこの六祭神といわれているがこの社伝は定かではないと記し、現神社境内の案内板ではこれに瀬織津比咩命、倉稲魂命を加え全体で八祭神、現在の神社誌、神社名鑑では天下春命、瀬織津比咩命、倉稲魂命の三神とありその記述は区々となっているようです。

時に埋もれた小野三神の出来

そして倉稲魂（ウカノミタマ）命はいつ合祀されたのか?!

天下春命がご祭神とされることなどにつきまして神社に系る諸資料では種々の論述がみられますので参考といたします。

後述の小野宮のお社の境内に建つ石碑の刻文によりますと「三代安寧天皇の御代に兄武日命（兄多毛比命）をこの州の国造に任じ命はこの地に府を建て祖廟を置く、この命は天下春命の後裔の二井諸忍野神狭命の九世（十世と記すものあり）の孫に当る」と刻み、神社明細の文書では多摩郡小野宮邑地名考をあげてその中で兄多毛比命がこの州の国造を賜ったとき、昔は国造となると祖先の神をその地に祀り崇敬する例にならい天下春命を勧請し鎮守となし給うとあります。しかし勧請の時代についてはふれていないようです。また名所図会や大国魂神社の境外摂社で兄多毛比命を祀る「坪神社」の明細書などでは「国造本紀」を基とし「十三代成務天皇の御宇にこの命を武蔵国造に定め賜い裔孫代々この国府に居住せられ云々」と記し、兄多毛比命といわれる国造が祖神天下春命を祀ったお社が小野神社であることを伺わせております。

参考までに国造とその祖神について付記をさせて頂きますと、府中市史では疑問としておりますが名勝図会などによりますと、国と呼ばれる名称や区域は定かではないが当地が含まれ、後年に武蔵国